

隠れた特権。学生さんいらっしゃい

「着飾った人たちが休憩時間にホールでシャンペンを開けていて、自分が場違いに感じました。やはり劇場はハイソなイメージ」。授業の課題としてオペラをはじめて見た慶應生はこう言う。

舞台芸術は若者に人気がないようだ。新国立劇場の統計によると、例えばオペラの観客のうち40歳未満の層は、全体の約10%に過ぎない。

「オペラは外国語だし、原作を読んでいないとストーリーの理解も難しい。よく分からないものにお金を出そうという気にはならない」と話すのは、都内の大学に通う学生の一人だ。劇場には、どうしても「お高い」イメージが付きまとう。オペラや演劇、バレエなど、舞台芸術は一般的な学生には遠い存在だ。

この状況を打開し、若者により広く舞台芸術に親しんでもらおうと、新国立劇場では2006年よりアカデミック特別優待プラン（通称アカデミック・プラン）を実施している。オペラ、バレエ、演劇などのチケットを格安で若者に提供する企画であり、大学生に対しては、例えば通常2万円以上かかるオペラのS、A席の購入を5千円で可能にしている。従来の学生割引では、通常5千～1万円のC、D席の当日券を半額で提供してきたが、アカデミック・プランを利用するとS、A席のチケットが通常の四分の一程度の価格で二週間前から予約できる。

無料での会員登録を済ませれば誰でも利用できるが、現在1万人の登録数に対し、2012年～13年のチケットの購入数は約1500枚にとどまるという。現段階ではアカデミック・プランの導入が大きな変化を生んだとは言いきれないが、同劇場の総括支配人、梅田潤一さんはプランの導入が根強いリピーターの育成を促進すると確信する。

「舞台芸術は、一度惹かれれば何度も足が向いてしまう、そこに期待しています」。

アカデミック・プランに限らず、このような学生割引サービスは他にもたくさんある。東京交響楽団や東京フィルハーモニー楽団などのコンサートでは、学生には通常千円程度でチケットを提供しており、中には最大7割引するものもある。劇場は、実は学生に対して大きく手招きしているのだ。学生の食わず嫌いを梅田さんは残念がる。5千円で一流アーティストによる演技にたちあえることは、梅田さんにすると「学生だけの特権」なのだ。

実際に行ってみたことで、抱いていたイメージががらりと覆される経験は誰にもあるだろう。一步を踏み出す最初の勇気さえあればいい。初めて観た学生からこんな声もある。

「動きもダイナミックで、声量がすごい予想を裏切られました オペラ、結構楽しいかも」